

## 2024年度(令和6年度)学校評価自己評価表

広瀬学園中学校区	校番 84 138	福山市立広瀬学園小・中学校
最終更新日		2024年(令和6年)4月1日

## I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。  
 ビジョン 「福山100ONE教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 中学校区

前年度学校運営協議会委員の意見  
 いろいろな意見を出し合いながら、子ども達がその子らしく伸び伸びと過ごせるよう見守っていきたい。  
 学校側の困っていることを公開してくだされば、地域・保護者から提言できることがあると思うので、遠慮せず言ってもらいたい。

児童生徒の現状  
 広瀬地域から通学する児童生徒の他に、学校に隣接する児童養護施設や他の校区から通学する児童生徒が増加している。また、通常学級に在籍する発達障がいのある児童生徒の数が増加している。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	「基礎的な知識・技能」「課題発見・解決能力」「コミュニケーション能力」
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	「自立」夢や目標に向かって見通しをもちねばり強く行動できる姿 「共生」友達の良さを認め課題解決にむけて共に取り組む姿
中学校区として統一した取組等	小中合同行事を効果的に仕組み、異年齢交流や大人数での活動を行い、児童生徒の「やればできる」「やってよかった」と感じる体験を積ませ、自己肯定感を高める。

## III 自校

ミッション  
 9年間の多様な学習活動を通して、一人一人の成長を大切にし、「自立」と「共生」ができる人材を育成する

学校教育目標  
 心豊かで 主体的に学び たくましく生きる子どもの育成

現状  
 <児童生徒>  
 様々な背景をもった児童生徒や不登校傾向、大人数の集団に馴染めない等から、小人数の環境に期待を寄せられて転入学する児童生徒が多く在籍している。そのため、学力の定着に差が見られ、自分を表現することや人間関係を築くことに課題があり、自己肯定感が低い児童生徒が多い。  
 <授業>  
 小学校では、児童が主体的に授業に進める授業形態の取組や異年齢での「教える」「教わる」関わりを大切に取り組んでいる。  
 中学校では、基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるために、具体物を使ったり、個に応じた指導に取り組んだりしている。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	①「基礎的な知識・技能」②「課題発見・解決能力」③「コミュニケーション能力」
めざす 子ども像	<小1～小4>基礎的な知識・技能を身に付け、友達と共有し、自分なりの考えを表現することができる。 <小5～中1>基礎的な知識・技能を着実に身に付け、仲間や友達と共有し、自分なりの考えを表現しながら、生活や他教科と関連付けて使うことができる。 <中2～中3>基礎的・基本的な知識・技能を着実に獲得しながら、他者と協働し目的に応じた解決策を導き出すことができる。
	<小1～小4>学びたいことややってみたいことを見つけて、実際に活動したり考えたりすることができる。 <小5～中1>自ら課題を発見し、見通しをもって解決方法や学習経計画を考えて、よりよい方法で実行することができる。 <中2～中3>物事を多面的に見たり、経験や知識を活用したりする中で、新たな課題を発見し、よりよい解決方法を選択することで、目的に応じた解決策を導き出すことができる。
	<小1～小4>目的や立場を理解して、他者と協力して活動することができる。 <小5～中1>多様な他者と互いに考えを認め合いながら、協働することができる。 <中2～中3>多様な他者と協働することで、新たな考えを創造し、適切かつ効果的な解決策を導き出すことができる。

研究	テーマ	個別最適な学びをめざした授業づくり ~ 生活に根ざした学びのデザインを通して ~
	内容等	○教科・学年の枠を超えて、異学年集団での関わりを生かした学び（広瀬タイム） ○指導の個別化・学習の個性化をデザインした単元計画（各教科） ○生活にリンクした言葉の理解と表現の仕方の習得【記号接地】
めざす授業の姿		○「なぜ、どうして?」「教えて!」「わかった、できた!」「もっとやりたい!」などの声のする授業 ○課題に向けて解決への手立てや方法を選択したり、個々の理解度に合った学び方をデザインしたりして、自分の考えを深めていく授業

## IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立広瀬学園小・中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)						
							□指標に係る 取組状況	加セス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	加セス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策	
3	自分の課題解決に向けて、主体的に学び、個々の学力を定着させる。	★	継 続	①児童生徒に基礎的・基本的技能を活用させ、個々の学力を伸ばす。  ②特別支援教育の視点を生かした授業づくりを進める。	○「指導の個別化」支援が必要な児童生徒により重点的な指導を行う。 ○「学習の個性化」児童生徒の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動を提供する。  ○視覚的支援・聴覚的支援・体感的支援・意欲的支援等を効果的に取り入れる。	○個別のサポート計画全学年実施 ○児童生徒アンケート 「授業で考えることは面白い」肯定的評価80%以上 ○教職員アンケート「学び合いのある場面を授業に取り入れている」肯定的評価80%以上  ○教職員アンケート「特別支援教育の視点による誰もがわかる授業を実践しようと工夫している」肯定的評価80%以上	○個別のサポート計画全学年実施 100% ○児童生徒アンケートより ・「授業で考えることは面白い」(小91.9%中76%) ○教職員アンケートより ・「学び合いのある場面を授業に取り入れている」(小100%中100%)  ○教職員アンケートより 「特別支援教育の視点による誰もがわかる授業を実践しようと工夫している」(小100%中100%)	3	3	3	○個別のサポート計画の質の向上 →「学びの伸び調査」等の数値データを分析・活用(小・中) →週1回の個別のサポート会議を実施(小)  ○教科・単元の本質的なねらいや面白さ、及び、指導・支援の仕方に重点を置いた教材研究を実施(小)  ○単元づくりの質の向上 →「再テスト」の実施、「学び直しの時間」の充実 →生徒同士で話し合う活動(対話重視)、口頭で説明したり記述したりする活動を行う。(中)	○個別のサポート計画全学年実施 100% ○児童生徒アンケートより ・「授業で考えることは面白い」(小93%中86%) ○教職員アンケートより ・「学び合いのある場面を授業に取り入れている」(小100%中100%)  ○教職員アンケートより 「特別支援教育の視点による誰もがわかる授業を実践しようと工夫している」(小100%中88%)	4	4	4	○個別のサポート計画の質の向上 →個別のサポート会議を全学年揃えて毎週木曜日に実施(小) →一週間毎に一人一人の児童の状況を振り返り、次週の取組を決定(小) →一人一人に合った「書く」活動の取組や支援等を検討、実施。(小) ○単元づくりの質の向上 →個々の学習課題の把握と学習し直し機会(中) →主体的(自己選択、個別最適)、対話的(学び合い、協働、話し合い、関係性づくり)、深い学び(自分なりの答えを出せる問い合わせ、自分の考えを説明する、記述する表現活動)(中)
3	広瀬タイムを通して、自己選択・決定をすることができる。	★	継 続	③広瀬タイムで、課題解決に向けて協働し、互いを認め合いながら学び、肯定的な評価ができる。  ④小中合同の学校行事等を充実させる。	○広瀬タイムにおいて、「地域」「自分」「仲間」をテーマとした課題発見・解決学習を進める。  ○児童会生徒会活動や行事において児童生徒が主体的に計画・活動を設定し、取り組めるようサポートする。	○児童生徒アンケート「自分の考えは認められている」肯定的評価90%以上  ○行事における児童生徒満足度90%以上	○児童生徒アンケート 「自分の考えは認められている」肯定的評価(小86.5%中88%)  ○行事における児童生徒満足度(小100%中94%)	3	3	3	○広瀬学園祭等において、地域・保護者へ児童生徒の頑張りを発信する。また、児童生徒が相互評価できる時間を設定する。  ○前年度の取組を生かしながらも、今年度の児童・生徒の思いや願いを実現できるように柔軟な企画運営を行う。	○児童生徒アンケート 「自分の考えは認められている」肯定的評価(小86%中96%)  ○行事における児童生徒満足度(小98%中94%)	4	3	3	○振り返りの充実 →行事のみならず、各単元において、自己及び仲間の頑張りを評価し合う場面を設定(小)  ○小中合同の取組の整理 →3年間の実績を踏まえ、各行事・広瀬太鼓・委員会等の取組を再編(小・中) 全員が参加する委員会活動を開拓。学期レク企画等、生徒の主体的な活動に積極的に

取り組んでいく。(中)														
3	地域・保護者から信頼される学校教育を推進する。	★	継続	⑤地域・保護者へ積極的に学校情報を発信する。	○様々な機会を通して地域・保護者への情報発信(各種便り・HP等)を積極的に行う。	○保護者学校満足度85%以上	○保護者アンケートより「広瀬学園の学校教育活動全般に満足している。」(小91.7%中81.5%)「広瀬学園の教育方針や教育活動、児童・生徒の様子は、通信やホームページ等によって、知ることができている」(小100%中88.9%)○教職員アンケートより「地域人材を活用して教育活動を行った」(小100%中100%)	3	3	○学校通信・学級通信等をデータ化し、ペーパーレスでの情報発信を進めます。	○保護者アンケートより「広瀬学園の学校教育活動全般に満足している。」(小100%中86%)「広瀬学園の教育方針や教育活動、児童・生徒の様子は、通信やホームページ等によって、知ることができている」(小100%中91%)○教職員アンケートより「地域人材を活用して教育活動を行った」(小100%中63%)	4	4	4
3	働き方改革の意義を理解し、自ら実践することができる。	★	継続	⑥業務内容を精選しながら質を高め、年間を通して計画的に業務を遂行する力を付ける。 ⑦資質向上のための研修を計画し、自己研鑽を積む。	○定時退校日を厳守するとともに、見通しをもった業務管理を進める。 ○校内研修・校外研修(市教研・県教研・先進校視察)を自己研鑽の場とする。	○時間外勤務時間、月45時間を超える職員ゼロ ○教職員アンケート「仕事に意義とやりがいを感じている」肯定的評価90%以上 ○教職員アンケート「研修により、新しい発見や取組を見直すことがある」肯定的評価90%以上	○時間外勤務時間、月45時間を超える職員(小0名中3名) ○「仕事に意義とやりがいを感じている」(小75%中100%) ○「研修により、新しい発見や取組を見直すことがある」(小100%中100%)	3	3	○協働と分業の整理を行い、効率的に業務を遂行する。 ○職員マイプロの推進を図るとともに、子どもの姿や声をタイムリーにまとめ、子どもの成長を実感できるようにする。 ○子どもを主語とした対話と、学力調査分析をもとにした授業改善を中心とした職員研修、先進校視察を進める。	○時間外勤務時間、月45時間を超える職員(小1名中1名) ○「仕事に意義とやりがいを感じている」(小43%中100%) ○「研修により、新しい発見や取組を見直すことがある」(小86%中100%)	3	3	3